

11月議会 本会議質問(11月25日) 岡田ゆき子議員

11月議会の個人質問での岡田ゆき子議員の質問概要を紹介します。

# 野外活動は子どもたちが貴重な体験をえる機会だ (岡田議員) 豊かな人間性をはぐくむうえで教育的意義がある (教育長)

## 20年で12万人が活用する野外学習センター

「仕分け」で廃止判定をうけた野外学習センターは市立高校生の野外教育活動の拠点として1990年に開設され、市立高校だけでも20年間で延べ12万5千人を超える高校生が利用しています。岡田ゆき子議員は、現地調査をふまえ、整備された施設と豊かな自然の中で、クラスそろって寝食を共にする体験は貴重なものと指摘し、野外活動の意義をたしました。教育長は「豊かな人間性をはぐくむうえで教育的意義がある」と答えました。

## 市民からも不安・不信の声

市民からは「自然の中での体験は、今の高校生には非常に貴重」「教育がなぜ事業仕分けの対象になってしまったのか」「採算が取れない事業だからこそ、行う価値がある。教育や文化に関わる分野は、受益者は社会全体。価値は価格にはかえることはできない」などの声が寄せられ、生徒からは「合宿で、一段とクラスの雰囲気良かった。高校生活を始めるために欠かせないものだと感じた」と感想を述べています。

## 来年の実施はどうするのか

来年の受験に向けた高校案内やパンフレット等でも、当センターを利用した行事紹介や部活動合宿等が紹介されています。岡田議員は利用時期など学校間の調整にも

入らなければいけない時期にあることを指摘し、「来年はどうするのか」とたしました。教育長は「継続は必要だが、来年度の実施内容は、現在検討中」と答えました。

## いつ結論を出すのか

これから検討しても代替施設はありません。美浜少年自然の家は再来年の予約をすでに始めています。他も同様、入り込む隙はありません。県の施設や民宿などは県立高校などがすでに使っています。部活動でも、剣道部は10数校、200名が合同合宿できる。こんなことがほかではできません。岡田議員は、ホームページでの生徒の声を紹介して「もう12月。いつ結論を出すのか」と追及し、存続を強く求めました。



<生徒による紹介文> (桜花高校の学校案内の例)

入学式の日から、3週間くらい経ったところで、高校生活初の大きな行事である「オリエンテーション合宿」が行われます。まだまだ不安も多く、クラスのほとんどの子をよく知らない状態と思うけど、合宿でみんなと仲良くなれるから心配しなくても全然大丈夫です。

(略)

一泊二日の合宿は、学習活動アリ、お楽しみアリ、友達作りアリと高校生活のスタートとして相応しい行事です。帰りのバスではクラスみんなが友達になっています。あっという間の2日間です！とても良い思い出になりますよ。

## 市民意見979件中、「廃止」は3件、「料金や年齢の改悪」は18件 敬老パスの多面的な効果を評価し、現行制度の維持を

行政評価について名古屋市に寄せられた市民意見のうち敬老パス関連が979件。そのうち「廃止すべき」は3件、「料金や交付年齢の引き上げ」が18件でした。一方、現行のまま継続や拡充を求める意見や健康面や経済的效果があるとする意見が98%でした。

## 生きがいづくりや社会参加のために有効 (局長)

「減税の恩恵もない人から敬老パスを奪うのですか」「団塊の世代を悪者のように言うのか」という声も紹介しながら、岡田議員は「外部評価はコスト論が取り上げられ、本来の意義や効果が十分議論されなかったは問題。敬老パスの果たしている役割をどう認識しているのか」とただし、局長は「日常生活だけでなく生きがいづくりや社会参加のために有効」と答えました。

## 130億円の事業費で420億円の経済効果

経済効果について、札幌市での調査結果(都心に月1~2回、近くの商店街に週1~2回で年間支出14~15万円)を名古屋に置き換えると、30万人の利用で約420億円の経済効果になります。岡田議員は「高齢者福祉という視点だけでなく、経済への波及効果、公共交通の促進、環境への影響など、多面的に評価することが必要」としてきし、「利用している当事者の声を大事にしていきたい。制度を守ってほしいという市民意見が大多数です。市民にこれほど評価され、支持されている事業はありません。敬老パスは現行制度を存続すべきです」と強く求めました。

